

シネマズライフ

2012年11月16日発行 第28号

<http://p.booklog.jp/users/rion-takagi>

貴樹 諒音(たかぎ りおん)

映画の風景 日本の風景

※ 山口県 秋吉台 ※

脱走したステイブ・マックイーンが演じるヒルツが、バイクで広い草原を疾走するのだから、これがすごく爽快で気持ちよさそうだな。たとえば、山口県の秋吉台。草原が広がり、もちろん捕虜収容所はないが、きつと走って見ると気持ちがいいに違いない。

《捕虜収容所》なんて昔の話。そんな物が大事な世界にはしたくないです

昔、「大脱走」という映画があった。こんな映画だ。

第二次世界大戦中のドイツ。北部第三捕虜収容所に、連合国の脱走常習犯達が集められた。草原に作られ鉄壁の守りに囲まれた収容所だ。

英国空軍で捕虜達のまとめ役・ラムゼイ大佐、ドイツ軍を捜乱する為の集団脱走計画の推進者・バートレット少佐、「トンネル王」の異名を持つダニー(ジェリンスキー大尉)、18回も脱走しているアメリカ陸軍航空隊大尉ヒルツ達だ。

彼らは早速脱走を計画したり、一筋縄ではいかない。バートレット少佐はそんな彼らをまとめ、トンネルを掘る計画を進める。やがてトンネルが完成し、76名が脱走！ドイツ中に逃走を開始したが…



確かに日本では珍しい風景です。

『大脱走』 1963年 アメリカ 製作・監督：ジョン・スタージェス 出演：ステイブ・マックイーン ジェームズ・コバーン チャールズ・ブロンソン

第二次世界大戦中、実際にあった脱走劇の映画化。脱走当時、捕虜の捜索にドイツ軍は7万もの兵力を投入し、ドイツ軍は多大な傷手を被ったという。

CS・BS放送のオススメ映画を紹介します！

on air!

『ダウト～あるカトリック学校で～』

イマジカBS

2008年 アメリカ

監督・脚本・原作：ジョン・パトリック・シャンリー
出演：メル・ストリープ フィリップ・シーモア・ホフマン
エイミー・アダムス ヴィオラ・デイヴィス

11月18日(日) 13:00

11月21日(水) 15:00

11月21日(水) 深夜 26:00 ⇒ 11月22日(木) 04:00

11月30日(金) 10:00

1964年、ニューヨーク。カトリック学校セント・ニコラス・スクール。校長シスター・アロイシスは事に厳しい教育方針で有名だった。一方、正反対の開放的な教育を目指すプリン神父にシスター・アロイシスはいい感情は持っていなかった。

ある日、シスター・アロイシスは、プリン神父が黒人だが優秀な為セント・ニコラス・スクールに特別に通っている黒人少年・ミラーと不適切な関係を持ったという噂を耳にする。慎重に調べていくが疑いは晴れない。ミラーの母は面倒を見てくれるプリン神父に感謝の言葉を語るだけだ。一方、疑われているプリン神父は憤慨してシスター・アロイシスに抗議。しかし、彼女は彼に疑いをぶつけるが…

アメリカの負の歴史と言える人種差別の色濃く残る時代が舞台。少年を守ろうとするシスター。また、“違った意味で”彼を守ろうとする神父の話はよくあった事だと思う。

最後に心の真意をシスター・アロイシス告白するミラー夫人の言葉は辛い…

『ジュラシック・パーク』

イマジカBS

1993年 アメリカ

監督：スティーヴン・スピルバーグ
原作・脚本：マイケル・クライトン
出演：サム・ニール ローラ・ダーン
リチャード・アッテンボロー ジェフ・ゴールドブラム

11月24日(土) 16:00

アリゾナの砂漠地帯で恐竜の研究をしていたグラント博士と植物学者のサトラー博士は、ハモンド財団の創立者ハモンド氏から、3年間の資金援助を条件にコスタリカ沖の孤島の視察を依頼される。孤島へのヘリには、数学者のマルカム博士、顧問弁護士ジェナーロ、ハモンド氏の2人の孫、レックスとティムが同乗していた。孤島は、延々とジャングルが続く島。しかし、島に降り立った面々は驚愕する。そこには、地球上から全滅したはずの数々の恐竜達が歩いていたからだ！

ハモンド氏は巨額の資産を投じ、琥珀に入っていた蚊の恐竜の血からDNAを採取して、恐竜達のクローンを作っていたのだ。ハモンド氏はここを恐竜のテーマパークとして開園するつもりだ。しかし、自然の摂理を曲げようとするこの行為に恐竜達は素直に従うはずはなかった…

公開当時は、CGでありながら実にリアルな映像に驚愕したもの。しかし、近年・ノーベル賞を受けた山中教授のiPS細胞の事もあり、現実的な設定になりつつあります。

☆ ネットでも読める「ミニコミ誌」です！主に映画の紹介とコラムです。よろしかったら、コメントで感想・お叱りお聞かせください。よろしくお願ひします！

m(L)_m 貴樹 諒音

※ 貴樹 諒音 ※ cinemaz-life@movie.nifty.jp ※ 告知ブログ ※ <http://rion-mitugu.cocolog-nifty.com/mitayo/>

発行予定は第一・三金曜日 m(L)_m

次回発行は2012年12月7日です。∞

☆ 最近のこれはお見事！「は、見事な映画の題名の紹介します反して、最近のこれはまずいぞ！」は、これは、まずいぞ！」と思う映画の題名を紹介しします。

【最近のこれはお見事!】『ハハハ』新しすぎて感動した(笑)

1995年 アメリカ 監督・主演: ウディ・アレン 「誘惑のアフロディーテ」 出演: ミラ・ソルヴィノ、レナ・ホナム、カーター・F・マーレイ、エイブラハム

古今東西、国・地域ごとに独自の神話が成立しているが、ヨーロッパではギリシャ神話がことに有名、そのお話は人間の悲喜こもこも描かれていて...。スポーツ・ライターのレニーは、妻・アマンダとの間に子供がなく養子を取る事に。最初は反対したレニーだが、引き取ったマックスはスポンツ万能・頭脳明晰の少年に育つ。彼を溺愛して育てたレニーは、ふとマックスの実際の母親はきつと素晴らしい女性に違いないと思いはじめる。



実に魅力的なアフロディーテ!

古く、お年寄りが置くにはたいてい、最近では回る恒星もなく、宇宙を浮遊する星もみつきり「ホームレス惑星」なんて名前をつけられているとか。感じは「フィフス・エレメント」の謎の惑星みたいなもの? でも、30光年向こうに浮遊しているとの事。この距離だと急に地球にぶつかると事はないですよ(笑)

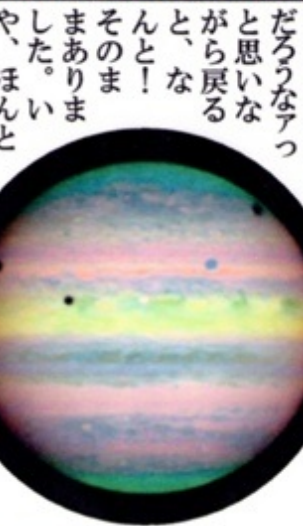
気がなりだした彼は、止せばいいのにマックスの生みの親を探し出す。で、判明したのは、なんと生みの母は娼婦! 驚くレニーだが、そのリンダに会って見ると人柄のいい美女。女優だとやうが、出演作はボルノばかり。

とりあえず、彼女に足を洗ってほしいと思ひ、何かと彼女の世話を焼き始める。彼女からレクチャーを受けたリンダは段々と知的な女性になつていくが...。一方、妻のアマンダが仕事関係の男と浮気中だった事が判明。シヨックを受けたレニーはそれまで関係を持たなかったリンダとヘットインしてしまう...。多数の人生の機尾を描き

続けたウディ・アレン。この映画も生きる事の面白さを見せてくれます。リンダ役のミラ・ソルヴィノがアカデミー助演女優賞を受賞。出演シーン? を迫真の演技で再現するのが受賞理由か! 誰でも、それぞれ普通に生きていくけど、少しづつ誰も知らない『真実』が隠されている、でもそれが人生...。そういう映画です。

Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema Film Movie Cinema

☆ 先日、大阪ステーションシティシネマに映画を見に行ったところ、チケット売り場で買ったばかりのチケットを置き忘れてしまった! ああ・どんくさい。そのまま、コンビニに買い物に行き、その時に気づいてびつくり! もう、チケットないだろうなアツと思ひながら戻ると、なんと! そのままありませんでした。いや、ほんとによかった。千円損するところでした。



木星の衛星による食。3つの黒点は左からガニメデ・イオ・カリストの影。

☆ 13日(東京大学などの研究グループが、約2000光年離れた恒星を中心にもつ惑星系で、周回する二つの巨大な惑星が重なり合つて見える「惑星食」を確認した! 『読売新聞より』そう。まあ、宇宙は広いし、惑星食もあり

☆ 25号でお知らせした通り今度はプリンターが壊れてしまいました(笑)。あ・予言が当たった!...じゃなくて、今年はその年。もう、寿命だと思つていたので、あっさり買い換えました。一番便利なのは、紙を入れる場所が前にある事。これは、とにかく楽です。それに、A4の紙とハガキが一度にセットできるのでこれまた楽! やつぱり新しい物はいいいですね。☆ 今年も急に寒くなりました。皆さま、お体お気を付けてくださいませ(。)

☆ 今年後半からお目にかかろうようになった西川忠志のキャラクターが面白い。最近の日本では絶対にお目にかかれ、実直で生真面目な発言が国宝物だと思ふ。たぶん、来年にはブレイクするのではないかと大いに楽しみにしています。

☆ 今年後半からお目にかかろうようになった西川忠志のキャラクターが面白い。最近の日本では絶対にお目にかかれ、実直で生真面目な発言が国宝物だと思ふ。たぶん、来年にはブレイクするのではないかと大いに楽しみにしています。

☆ 今年後半からお目にかかろうようになった西川忠志のキャラクターが面白い。最近の日本では絶対にお目にかかれ、実直で生真面目な発言が国宝物だと思ふ。たぶん、来年にはブレイクするのではないかと大いに楽しみにしています。



☆ 今年後半からお目にかかろうようになった西川忠志のキャラクターが面白い。最近の日本では絶対にお目にかかれ、実直で生真面目な発言が国宝物だと思ふ。たぶん、来年にはブレイクするのではないかと大いに楽しみにしています。

【最近のこれはまずいぞ!】『次の朝は他人』 『逢うときはいつも他人』という名タイトルがあるので...、あ・もう一歩!

